
キミの笑顔は、、、

行方不明。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キミの笑顔は、、、

【Nコード】

N2543E

【作者名】

行方不明。

【あらすじ】

完全オリジナル。キミが笑わないから、僕は

ねえ、
お願いだから
笑ってよ。

「なあー」

「…何か？」

「1 + 1 は？」

「…、2。」

無表情だ

無理矢理頬を伸ばす

…笑わない。

……つたく。

「笑ってくれよ」

「…笑わない」

キミはそう言った

「何でだよ」

「必要さが、解らないから。」

「…笑うの楽しいじゃん」
心なしかムキになる

「解らないよ」

「楽しいんだ、笑うの。
楽しいんだよ、うん。」

自分にいいきかせる。

「理由、何」

理由、なんて、、

言えない。

「ない」

そう言って誤魔化そうとする。

そんな自分にも

気付かないフリ

「じゃあ解らないよ」

キミが言う。

理由、なんて、

言ったら恥ずかしいだけなんだがなあー

けど言わなかったら気付かないよなあ

「解らないよ。なんで？」

もう一度聞くキミ。

仕方ないから

言う。

「、お前といるの楽しいけど

一緒に笑えたら、

もっとすっげー楽しいと思ったから」

不思議そうな顔をするキミ。

…鈍感。

遠回しじゃあ駄目ってか？

かなり恥ずかしいんだが

仕方ない

真っ直ぐに

伝えよう、

僕の心を。

「好きなお前と一緒に笑っていたいんだよ」

キミはこれで気づいたか？

この僕の心に、

気付いたのなら

頼んでいいか？

ひとつ。

僕のために

笑ってくれよ。

そうしたら

ふたりで

笑いあえるだろう？

だから、

な
？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2543e/>

キミの笑顔は、、、

2011年2月4日03時22分発行